

Q 町長の政治理念姿勢は

A 非常事態解決に「オール国見」で取り組む

問 どのような政治理念・姿勢で町政に当たるのか。

町長

現在町が直面している極めて困難な課題解決のため「復興・絆、国見の未来をみんなのでつくりましょう」をスローガンに①国見町の維持と更なる発展。②政治的中立の担保と町民主役の町

政。③国、県、市町村関係機関などへの提言や連携。これらの実現のため町民、関係団体が一丸となった「オール国見」の精神で、この非常事態の収束に全力で取り組んでいく。

問

町づくりとして活力ある町政の実現のため農商工一体となった町民の交流の

場を設置し人口減少に歯止めをかけるとある。前町長が活性化に必要であると進めてきた道の駅はどうか。

町長

道の駅はどうしても物販が中心。更に食事ができ、集える、見られるなど、町民が一体感が持てる施設が必要ではないか。現在進めている道の駅に付加価値をつけ、施策を展開できるように今後検討していく。国見町は元気がないと聞くので活力と元気あるまちづくりに努めていく。

下水道浄化センターの汚泥問題

問 県北浄化センターに留め置かれている汚泥の量はいくらか。

課長

12月9日現在2万2175ト、テントは63張

である。

問

県は汚泥の悪臭対策として汚泥を乾燥させて五分の一に減容化するため日本下水道事業団に設計を発注した。単なる減容化では放射線が高くなり場外搬出が困難になることから環境を守ることはこの計画の白紙撤回を要求した。町は県と事業団にどのような申し入れをしたのか。

課長

県には環境とともに計画の白紙撤回を、事業団には町として放射線を除去し汚泥が再利用できるように申し入れをした。

より多く自家用農産物の放射線検査を

問

一戸で検査できる件数が五品目になったが、まだ十分だ。更に拡大できないか。

原発災害対策室長

一日で検査できる件数が限られていることや多くの町民に測定することができない機会を確保するために制限している。これからの申込状況をみて検討する。



松浦常雄議員



12月27日、震災復旧復興対策推進町民会議

～8人の議員が登壇～



町政を問う

一般
質問

12月定例会

通告順	議員	質問事項
1	松浦 常雄議員	新町長の政治理念・姿勢、及び町づくりについての思い・願いについて
		自家用農作物の放射線測定について
		県北流域下水道浄化センターの汚泥問題について
2	佐藤 定男議員	新庁舎建築計画の現状と今後の予定について
		統合された旧小坂小・大木戸小の施設活用について
3	阿部 泰藏議員	活力のある街づくりについて
		住宅の除染について
4	渡辺 勝弘議員	町長の基本理念における除染に対する考え方について
		震災時におけるボランティア活動について
5	井砂 善榮議員	県北浄化センター放射性物質汚泥問題について
		スクールバス運行について
		まちなかタクシー運行について
6	渋谷 福重議員	大雪での除雪は万全か
		国見町特産あんぼ柿生産の自粛について
7	浅野 富男議員	米軍のオスプレイ飛行訓練について
		国見町を維持し発展させることについて
8	村上 正勝議員	県北浄化センターの汚泥問題について
		桃せん孔細菌病対策について
		JR藤田駅前の駐車場整備について
		国見小学校の校庭について